



東中だより

夢を追え、自らを高めよ
—学べ・磨け・輝け—

2月号

さいたま市立東浦和中学校

〒336-0932 さいたま市緑区中尾 1207-1

☎ 048-873-4141

令和5年1月31日 発行

「信じる」ということ

校長 遠藤 浩之

「その人のことを信じようと思います」っていう言葉ってけっこう使うと思うんですけど、「それがどういう意味なんだろう」って考えた時に、その人自身を信じているのではなくて、自分が理想とする、その人の人物像みたいなものに期待してしまっているのかなと感じて。

だからこそ、人は「裏切られた」とか、「期待していたのに」とか言うけれど、別にそれは、その人が裏切ったとかいうわけではなくて、その人の見えなかった部分が見えただけであって、その見えなかった部分が見えた時に、「それもその人なんだ」と受け止められる揺るがない自分がいるというのが、信じられることなのかなって思ったんですけど。

でも、その揺るがない自分の軸をもつのはすごく難しいじゃないですか。だからこそ、人は「信じる」って口に出して、不安な自分がいるからこそ、成功した自分だったりとか、理想の人物像だっぴりにすがりたいんじゃないかと思いました。

ご存じの方も多いかと思いますが、女優の芦田 愛菜さんが、2020年に公開された映画「星の子」の完成報告イベントの際、「信じる」ということについての述べたコメントです。私はその時の様子をテレビで見ましたが、一つひとつの言葉をしっかり考え、ていねいに伝えようとする姿勢だったことを覚えています。そしてそれは、彼女が16歳という年齢であることを忘れさせるものでした。

今、なぜこの言葉について触れたかという、最近、生徒同士でも人間関係のトラブルが少なくないことを感じているからです。友達同士で、「あなたのこと、信じてるからね。」という言葉を交わすことはよくあると思います。ところが、相手が自分の思った通りの行動をしてくれないと、「あなたのこと信じてたのに。裏切られた。許せない。」となり、それがきっかけで、いじめの芽が芽生えてしまうことだってあります。

でも、これは相手の見えなかった部分が見えただけのことです。つまり、「ああ、自分は、まだこの人のこと、わかってなかったんだな。」と自覚すればいいわけです。こういう状況の時、「裏切られたという感覚」をもつことを、私は否定しません。でも、相手はいつも通りの自分でいただけですから、それを「許せない」と言われても、その人はどうしようもないことを知っておく必要があるかもしれません。

アメリカの詩人に、ロバート・フロストという方がいます。もうお亡くなりになっていますが、彼はアメリカ合衆国における新聞、雑誌、オンライン上の報道、文学、作曲の功績に対して授与されるピューリッツァー賞を、4度も受賞したことのある素晴らしい詩人です。

その方の有名な言葉に次のようなものがあります。

「人づきあいがうまいということは、人を許せるということだ」

さて、みなさんはどうでしょうか。これから社会に出て、たくさんの人と関わりながら生きていくことになる生徒の皆さんには、是非、この言葉を覚えておいてほしいと思っています。